

令和4年度

自己評価書(前期)

南アルプス市立芦安中学校

芦安中学校 自己評価書(前期)

令和4年8月26日(金)
南アルプス市立芦安中学校

1 自己評価(前期)の経過

- (1)前期教職員対象アンケート及び生徒対象・保護者対象アンケートの実施(7月)
- (2)アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議(8月)

※小中一貫校の取組の観点から、評価項目は基本的に芦安小学校との共通で実施。

2 学校評価の分析と課題点

【学校生活全般について】

生徒数の減少により、仲の良い友だちや相談できる友だちの存在がないことを、生徒も保護者も実感している。本来であれば、学校生活の中を通して、親・家族から自立するためにも、同級生や仲間への存在は欠かせない。現状では、すぐに解決できる課題ではないが、教職員としては、今後も生徒に寄り添った(生徒の考え・思いを理解した上での)指導を心掛けていきたい。また、小学校との連携・合同活動の充実も必要である。

【授業・学習指導について】

教職員・生徒・保護者ともに、家庭学習に大きな課題があると受け止めている。今後も、「芦安中・家庭学習の手引き」を活用した取組を続けていく。授業では、ICT機器等を活用して生徒の理解力や表現力を高める工夫をする。家庭学習と授業が「有機的な結び付けられるように」、反転授業や、復習・予習に取り組むことも必要となっていく。

【学校・家庭生活&指導について】

「早寝早起き」ができない生徒の割合が高く、生活リズムの乱れが気になる。日常の取組や道徳の授業等を通して、基本的な生活習慣の定着を目指したり規範意識を高めたりする取組を行う。また、家庭学習の改善・充実に関しては、学習時間だけでなく、食事・睡眠・ICT機器活用時間等も含めた計画表を作成した上で、家庭学習に取り組ませる方法も考えられる。

【学校・保護者・地域連携について】

情報提供・公開について、教職員側と保護者側での評価にずれがある。学校からの情報提供・公開については、学校側はHPや通信等で情報発信をしていると考えているが、保護者からは「子どもから聞く範囲でしかわからない」という声もあった。本校は生徒の送迎機会等で保護者が来校する機会が多いのでその機会を利用して生徒の様子を伝えたり、各種通信等で担任の思い等を保護者に説明したりして、一層の情報提供・公開に努める。

【特色ある取組・学校運営について】

芦安小・中の特色ある取組は登山学習と小中合同活動、それに英会話の日常化(コミュニケーション能力の育成)である。(英会話の日常化に関しては、第1回目の学校運営協議会の中でも話題になった)その中で、英会話の日常化の評価が低く、改善が必要である。また、危機管理面で、教職員の意識を高める取組も必要である。

3 学校評価の改善方策

★特色ある学校づくりを進め、魅力ある芦安中学校を実現する！

(1)ICT機器の積極的な活用等を通じた授業改善

- ①生徒の実態に合わせた授業づくりを進めます。
- ②ICT機器を活用した教材・資料の提示、発表・討議等、生徒の学びの質を高める取り組みを進めます。
- ③オンラインによる他校と授業交流(英語等)にもチャレンジしたいです。
→ 山間部・小規模校の「時間的・空間的な弊害」を取り除くため。

(2)家庭学習の充実・基本的な生活習慣の定着

- ①「家庭学習の手引き」を活用した家庭学習を進めます。
- ②基本的な生活習慣の定着も含めた計画表を活用した取組をします。(試験期間中等を活用)
- ③家庭でのICT機器等の活用方法や時間等について、GIGAワークブックを活用した取組を進めます。
- ④復習・予習、反転授業(学習課題について家庭で考える)等を取り入れ、授業と家庭学習の連携を図ります。→ 「授業と家庭学習を有機的に結びつける」ため

(3)英語活動を含めた小中合同活動の見直し・改善

- ①ねらいを明確にした取組を進めます。(前例踏襲ではなく)
- ②イングリッシュゲーム・ハロウィンパーティー等の英語活動の充実を図ります。
- ③9年間を通した「英語活動」の指導計画を作成し、系統的な指導に取り組みます。

(4)前例主義に陥らない学校運営の実現

- ①小中合同活動(運動会・文化祭等)・エコスクール学習・登山学習等、本校の特色ある取組について、計画→実施→反省→見直し・改善を図ります。
- ②「危機管理」についても、「想定外」も想定した中での研修・指導・訓練の実施、危機管理マニュアルの見直し・改善に努めます。